



2023年2月17日

カトリックさいたま教区 司教
マリオ 山野内 倫昭

新型コロナウイルスに関する教区の対応について (第24次)

ミサをはじめ、全ての活動は、「三密」を避けるための工夫をその時々の変化に即して
行いながら、しばらくの間は細心の注意を忘れないでください。

1・主日・祭日ミサ

1・1 主日ミサに与る共同体は、ぜひ「国籍や言語の違いを超えた、共同体のメンバー全てが参加するミサ」となるよう工夫をしてください。
具体的には、現在と同じく、これからも、主日ミサ（複数回行われている場合はそのうちの主要なミサ）は「日本語の式文」を用いて行ってください。外国籍信徒の方々も喜んで「日本語ミサ」に与れるようにするために、朗読や共同祈願、聖歌など、外国語のものを用いるなど、配慮をお願いいたします。
またカトリック信徒としての守るべき大切な勤めであることを忘れないでください。

1・2 主に、大規模教会に当てはまると考えますが、主日ミサが「国籍や言語の違いを超えた、共同体のメンバー全てが参加するミサ」となるよう、必要なら、主日ミサの回数を増やすこと（午後にも行うとか）を検討してください。

1・3 必要がある教会においては、必要な外国語について、ブロックとして、月に1回を限度に、「外国語のミサ」を計画することを認めます。ブロックの会議などで、必要なら隣接のブロックなどとも相談してください。

そのためのブロック内信徒の移動は可能です。

その際、さいたま教区の司祭団の現状では、ご希望に完全にお応えできる状況にないことを予めお断りいたします。

また、茨城県（古河、常総を除く）（全県1ブロック）の外国語ミサについては、他ブロックに準じた適用となるよう工夫をお願いいたします。

2・できるだけ母国語で行うことに努めたいミサなど

2・1 葬儀ミサ（通夜）、追悼ミサ、結婚式

2・2 待降節、四旬節の黙想会や集い、守護の聖人の祝日の集いやミサ

まず主任司祭、あるいは教会管理者に相談してください。

2・3 要理（カテケージス）

対面を基本とし、原則として日本語で行いますが、必要な時には母国語で行ってください。そのためのカテキスタの養成と任命を行ってください。

3・オンラインの扱い

3・1 ミサは原則として対面での参加としますが、対面でのミサに参加できない方のための工夫を、できる範囲で、小教区レベルでお願いします。

3・2 霊的な祈りの集い、黙想会、勉強会は小教区を超えて参加して構いません。

3・3 他の小教区がオンラインでおこなう秘跡の準備の講座を受けたいときには、所属する小教区の主任司祭の了解を得てから受けてください。

4・聖体拝領・歌唱・会食について

4・1 聖体拝領について

聖体拝領は、当分は、引き続き、手で受けてください。また、ご聖体を授ける司祭等の手の消毒には、引き続き、十分お気を付け下さい。信徒がご聖体を受けるとき、その掌が濡れていないよう工夫してください。

4・2 歌唱について

ミサは私たち信徒にとって信仰生活の中心となるものです。そのミサの中で歌唱が持つ役割の大切さには、今回のパンデミックの中で、皆さんも改めて気づかれたことでしょう。それぞれの教会の周辺状況を見極めつつ、しばらくはマスク着用を行った上で、声量を抑えながらの歌唱を許可いたします。

4・3 会食について

感染拡大の元となる恐れの高いことから、大人数での会食の再開についてはそれぞれの教会で慎重に判断なさってください。まず主任司祭、あるいは教会管理者に相談してください。